新元号『令和』記念大会

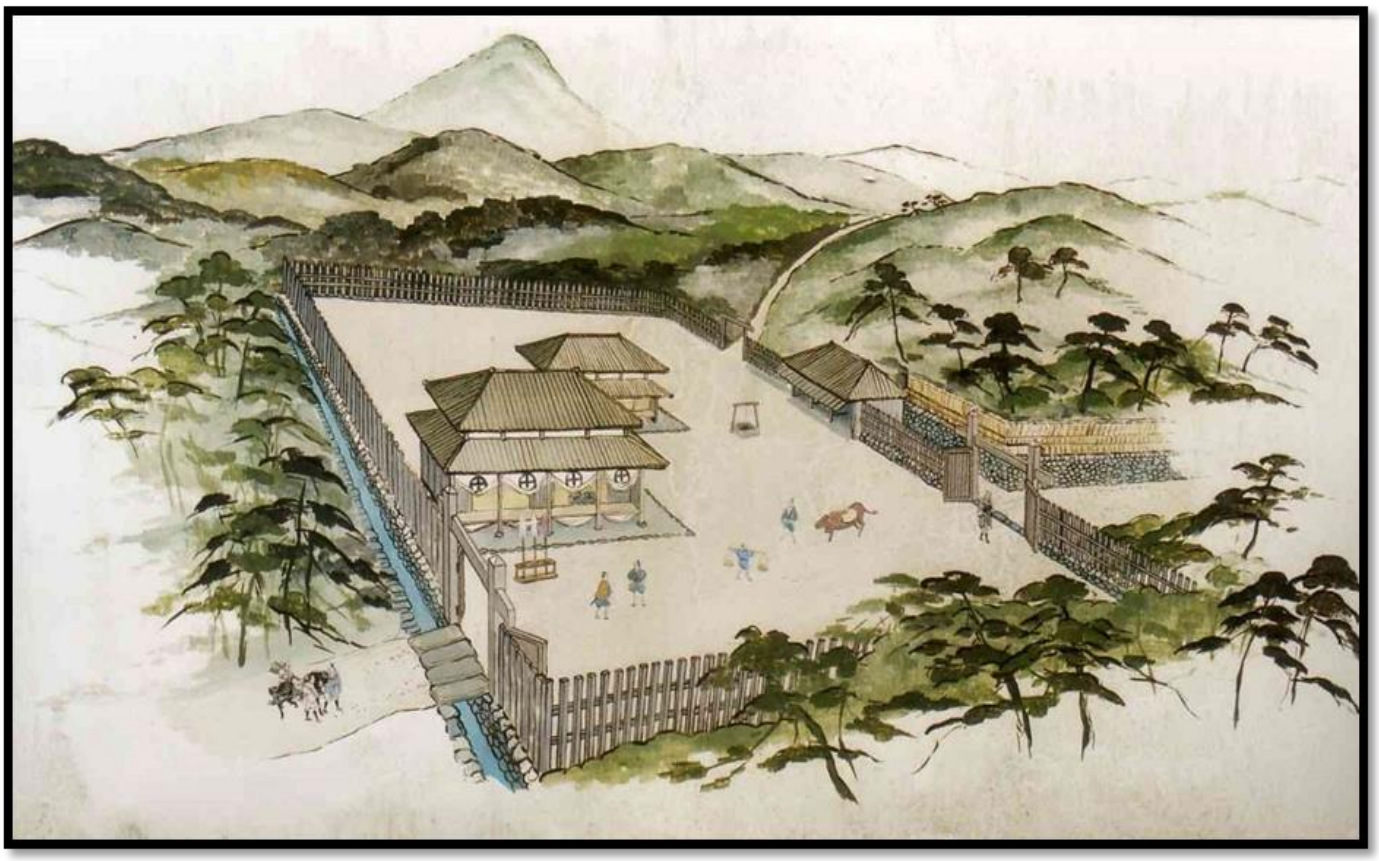
史跡めぐり歩こう大会

《と　き》令和元年５月１２日（日）（※雨天時は、中止します。）
◎受付時間：９時００分～９時３０分
◎出　　発：９時４０分　◎帰着：１２時３０分頃の予定

《ところ》米ノ津運動公園

《コース》米ノ津東地区に残る史跡を見学します。
歩く距離は、約５ｋｍです。

【主な見学ポイント】
①加紫久利神社　②野間の関跡　③有村雄助首実検の地　④出水川定右衛門の墓
⑤米ノ津天満宮　⑥津口番所跡　⑦新町 里程標　⑧仁王像　⑨庚申塔
⑩火ノ神（秋葉神社）　⑪夜泣きの神様



野間の関

①　加紫久利神社

加紫久利神社の創建は定かではないが、文徳天皇実録に「仁寿元年（851 年）薩摩国賀紫久利神社を以て官社に預かる」とあり、その頃創建されたのではないかと推定されている。

加紫久利神社は枚聞（ひらきき）神社（薩摩一宮）と共に延喜式神名帳に記載された式内社である。

門守

明治10年の西南の役で官軍が社殿に火を放ち、社殿や記録等は焼失したが門守社は難をまぬがれた。

享保６年（1717 年）製作の木像が祀ってある。

鬼瓦

西南の役で焼失した本殿の鬼瓦。
本殿左側庭に安置してある。

出水川定右衛門の石燈籠

本殿横にある石燈籠は、江戸相撲で活躍した米ノ津出身の力士「出水川（いずみがわ）」が寄進したもの。その頃の相撲界では、当時最強の力士の達ヶ関（だてがせき）を誰が倒すかが大きな関心事であった。出水川も達ヶ関の前には歯が立たず、加紫久利神社に参籠祈願して御神託を得た。その後、御神託

を胸に再挑戦した結果、みごと達ヶ関を倒すことができた。

石燈籠の銘に、「安永三年甲午八月吉日　出水川定右衛門」とあり、達ヶ関を倒したお礼として神社に寄進したものといわれている。

②　野間の関跡

野間の関の前身（平松番所）が設けられたのは、関ヶ原の戦いの慶長５年（1600 年）前後である。島津義弘は腹心の宮之城領主島津忠長を遣わして国境の要地出水を守らせ、その後も代々の地頭を置き国境警備を厳重にした。藩政時代、領外への主要陸路は出水・大口・高岡（宮崎県高岡町）の三筋で、中でも出水筋が最も重要視された。江戸時代になり、各藩は国境の警備を弛めたが、他国からの侵入を恐れた薩摩藩はますます取締りを強化したといわれている。

③　有村雄助首実検の地

有村雄助首実検の地といわれている孫山は、野間の関からおよそ3～400m離れた所にあり、野間の関から領外へ出る道路脇にある。

安政７年（1860 年）３月３日水戸浪士蓮田一五郎ほか 16 名が、時の大老井伊直弼を桜田門外に待ち伏せして討ち果たしたが（桜田門外の変）、その中に薩摩藩士、有村雄助（23 歳）、治左衛門（21 歳）兄弟がいた。弟治左衛門は襲撃で重傷を負って自刃するが、兄雄助はこの事件

を報告するために、水戸藩士と同伴で京都に行く途中、現在の名古屋付近で薩摩藩に捕えられ、鹿児島に護送されてくるのである。鹿児島では盟友一同が助命をお願いしたが許されず、有村雄助は切腹を命じられた。その死体を野間の関の外まで運び、幕府役人からの死亡の確認（首実検）を受けたのである。桜田門外の変から20日余り過ぎた明け方のことであった。

④　出水川定右衛門の墓

出水川定右衛門（生年不詳）は米ノ津元町出身の力士で、幼少の頃から恐るべき力持ちだったと伝えられている。はじめ大坂相撲に入り、四股名を郷里の米ノ津川の旧名から「出水川」を名乗り、間もなく江戸相撲に移った。

当時の番付では、初入幕は明和２年（1765年）、安永９年（1780年）まで載っているので、驚くほど長い力士寿命である。この間３回優勝している。

出水川は小結・関脇で活躍しており、「達ヶ関」や「雷電」は出水川のライバルだった。

相撲の技の一つに「泉川」という技があり、これは出水川が考案したものといわれている。

⑤　米ノ津天満宮

島津重豪が天明７年（1787年）参勤交代の途中、米ノ津の御仮屋に泊まったとき、一片の光が飛来した。見てみるとそれは「天満天神」と銘のある鏡であり、天神が降臨されたのだということで、菅原道真公の神像を大宰府の別当延寿院に作ってもらい、その神像と鏡を祀り、米ノ津天満宮を建てて御神体とした。

⑥　津口番所跡

米ノ津津口番所は、米ノ津川河口右岸、米ノ津天満宮付近にあったといわれている。

米ノ津町は海や陸の番所を通って肥後側へ出入りする藩役人や旅行者が一宿するところであり、藩主の宿泊する「御仮屋」も今の米ノ津天満宮付近にあったといわれている。

津とは港のことで、中世薩州家の頃から「米ノ津」は阿久根・京泊（薩摩川内市）・川内と並び外国側によく知られた港で、薩摩の国際的な貿易港がある山川（指宿市）と並んで、この地域に港が集中していた。

番所は元々、国の防衛のために設けられたものだが、江戸中期以降になると、特産品の他領移出を取り締まるのを第一とした。

⑦　新町　里程標

旧国道（米ノ津４つ角）の道路脇に立っている石の角柱が里程標（一里塚の跡）である。

進行方向に合わせ「阿久根西方川内・熊本県下水俣」「武本大川内羽月大口」とある。

⑧　仁王像

吽像

阿像

平松踏切近くにある阿吽の仁王像で、大きな金剛力士像となっている。

幸善寺（真言宗寺院）の守護神として山門付近にあったが、明治２年（1869年）の廃仏毀釈で寺院とともに破壊されたため、特に顔面が損傷を受け、腕も大半が欠落している。

この像は近くに放置されていたが、昭和36年（1961年）９月26日加紫久利神社再興の際、現在地に建てられたものである。

⑨　庚申塔

平松には、三基の庚申塔が現存している。

庚申塔は、この地で庚申講があったことの証である。庚申講では集落でのいろいろな取り決めが行われたり、新しい決まりが話し合われたりする。また、この講は、若者に社会人としての礼儀作法、ことば遣い、社会規範など、もろもろのことについて指導していく教育の場であり、規則に違反したものに対しては厳しく諭す場でもあった。

⑩　火ノ神（秋葉神社）

全国いたるところに建てられているが、祭神はいずれも火之迦具土神である。

各家庭では火を大事にし、火ノ神が祭られていた。

火を大切に取り扱い、火災を未然に防いだり、二度と火災が起きないようにとの願いをこめた神が「火ノ神」である。

火ノ神の総本山は静岡県の秋葉山で「秋葉大明神」「秋葉大権現」という。

⑪　夜泣きの神様

夜泣きの神様は子供が夜泣きして寝ないときなど、これを直す神様で米ノ津運動公園内にある。終戦当時は食糧難で母乳が満足に出ない人が多く、子供が乳を欲しがって夜泣きをするため、

子供をおんぶしてこの神様にお参りしたものである。以前は石塔があり、年１回は加紫久利神社宮司と関係者が出席してお祭りをしていた。

メモ欄

～参考文献～

以下の文献等を参考にしました。

『出水郷土誌　上・下巻』出水市（2004）　8,000 円
『出水の文化財』出水市教育委員会（2002）　500 円
『出水の石碑・石造物』出水市教育委員会（2001）　700 円
『出水の生活伝承』出水市教育委員会（2008）　700 円
『出水の旅物語』出水市教育委員会（2000）　700 円
『平松の史跡と物語』
『出水風土記』

鹿児島県ホームページ
鹿児島県神社庁ホームページ

令和元年度史跡めぐり歩こう大会 マップ